

未来はどうなるか誰も知らない

今までも何度か、小さい頃から、女の人に関心はあった。自分の理想の女性、あこがれの女性の出現と言うのは大げさか。いや、そんなこと、理想なんて言うのは、まだ、幼かった僕にとっては、大げさかも。

小学校の時は、毎回春の組替えでは、一緒に今までクラスにいた女の子と別れることになり、さびしい思いになった。その女の子と別れて、自分の気持ちを、初めて知ったぐらいの、無意識だった。

しかし、僕が小学校六年の時はちがった。

あれは、僕にとっては、初めての片思いだった。仲良し希望から、ほのかな、あこがれの気持ちへ。

あの時は、中学二年生の、近所の女の子。

僕は半分甘えるような感じで、あの人を恋していた。しかし、あの方は、ただ、年下の男の子として、自分の弟と同じ年の近所の子として、僕を見ていた。

僕がその家で同級生と遊んでいると、あの方が学校から、帰って来て、僕等が遊んでいる前で、いつもの様に、平気で、制服を脱いで、普段着に着替えた。

僕はいつもなら気にしないで、友達と遊びに、没頭しているところだったが、その時はちがった。初めてきれいな人だと感じたのはその瞬間だった。僕は、その時初めて、あの方のことを気になった。